

報 告

第 1 回 東日本大震災復興支援リハビリテーション工学講習会 in 盛岡

1. はじめに

平成 25 年 2 月 2 日、3 日に日本リハビリテーション工学協会主催の第 1 回復興支援講習会が岩手県盛岡市にある岩手大学で開催された。

この研修会は一昨年に発生した東日本大震災の被災地である岩手県で講習会を開催することを通じて被災地の復興の一助になればという考えから復興支援講習会という名称となっている。

講習会は 2 日間の日程で 1 日目午前は基調講演と特別講演。1 日目午後からは SIG ごとの合計 10 テーマの講習会スケジュールで行われた。

2. 基調講演と特別講演

岩手大学工学部長西谷泰昭氏の基調講演では、岩手大学はそれぞれの学部の専門性を生かした被災地支援を行い、工学部は被災地復興のために重要なツールとなるパソコンを日本中から集め、メンテナンスを行った上で被災地に届ける活動を継続してきたこととであった。被災地支援はそれこそ非常時であるから、支援者はなんでも行うという考え方も大切ではあるが、それぞれの専門性を十分発揮できる支援内容を考えた上で、活動を展開していくことも重要だと感じた。

仙台市で有限会社車座を運営されており、自らも車いすユーザーである巴雅人氏からの特別講演では、東日本大震災での被災者として体験談、福祉用具についての話があり、直接津波の被害も大きかった被災地での様子をお聞きする貴重な時間となった。

講演後半は巴氏自身が障害を持った経緯や、どのように福祉用具に携わってきたのかの話となり、その中で、「障壁（バリア）の種類の中の心理的バリアは、人間の意識や態度が作り出す人の中にあるバリアで、これは他者の中だけではなく、自分の中にも存在す

滝沢村役場高齢者支援課 作業療法士 市村 敦

る。私の仕事はその様々な壁（バリア）にドアを付け、障害者の生活圏拡大のための活動をしている」との話があったが、これはリハビリテーションの考え方そのものであり、我々の役割を再確認する機会となった。

3. 各 SIG の講義

午後からはそれぞれの SIG に分かれての講義。受講した講義の内容だが、車いす・移乗機器 SIG では既知の内容もあったが、自分が持っている福祉用具の知識は実はまだまだで、その活用方法や新たな福祉用具の情報は常に更新していかなければ、福祉用具を使用する当事者にとっては効果的なものにならないことを痛感した。コミュニケーション SIG では、市販テレビゲーム (Wii) を車いす利用者や高齢者も楽しめるように開発された入力補助装置の説明や体験があった。入力補助装置などは電気信号系統の改造が主のようなイメージがあり、苦手意識が先行していたが、今回紹介があった補助装置は構造としてはシンプルなものだったことに正直驚いた。障害を持つ方から、補助装置の相談を受けていた矢先だったため、参考となる部分もいくつも入手できた。次につながる知識を仕入れることができることもこういった講習会の魅力の一つだと感じる。

4. おわりに

今回、他の SIG も興味をそそられる内容だったので、受講できず非常に残念だったが、他講義資料をみても、どの講演、講義でも障害を持つ方の障害の部分に着目するのではなく、その方の生活、人生を最も重要視していると感じた。どうしてもその方のもつ障害の部分（できない部分）に着目しがちであるが、我々支援する側はそこで留まっている当事者やその家族に適切で効果的な情報提供や支援をすることで、生活や人生をより豊かにするためのキッカケをつくるのが、重要な役割であると再認識することができ、とても有意義な 2 日間となった。

滝沢村役場高齢者支援課

〒020-0172 岩手県岩手郡滝沢村鶴飼字中鶴飼 55